

学童就学時の祈祷

司輔詠

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

アミン。

天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主経

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を憐めよ。主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。

來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第三十三聖詠

われいすれ何の時にも主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り。我が靈は主を以て誇らん、溫柔なる者は聞きて樂まん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を受けざらん。此の貧しき者呼びしに、主は聆き納れて、之を其悉くの難難より救えり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味えよ、主の如いかん。彼を畏るる者は乏しきことなし。少子よ、來りて我に聽け、主を畏るる畏れを爾等に訓え。爾の口を偽りの言より止めよ。惡を避けて善を行い、和平尋ねて之に従え。主の目は義人を顧み、其耳は彼等の呼ぶを聴く。唯主の面は惡を為す者に對う、その名を地より滅さん為なり。義人は呼ぶに、主は之を聽き、彼等を悉くの憂より

免れしむ。主は心の傷める者に近し、靈の謙る者を救わん。義人には憂多し、然れども主は之を悉く免れしめん。主は彼が悉くの骨を護り、其一も折れざらん。惡は罪人を殺し、義人を憎む者は亡びん。主は其諸僕の靈を救い、彼を頼む者は一人も亡びざらん。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾に帰す。(三次)

大聯禱

我等安和にして主に祈らん。
(以下毎次同様)

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

氣候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祈らん。

航海する者、旅行する者、病を患うる者、難難に遭う者、虜となりし者、及び

彼等の救の為に主に祈らん。

此の学童（或いは児童）等に、智恵と明哲との聖神を遣わし、彼等の知識と口とを啓き、心を照して、善き教導を受けしむるが為に主に祈らん。

彼等の心に智恵の源なる神を畏るる畏れを納れて、幼少の粗暴を其心より遠ざけ、

彼等の知識を照して、惡を避け、善を行わしむるが為に主に祈らん。

彼等の知識を啓き、凡の善にして靈に利益ある教導を受けて悟りを得、之を記憶せしむるが為に主に祈らん。

彼等に神の宝座より發する智恵を與え、之を其心に納れて、彼等に何事が主に喜ばるるやを教ゆるが為に主に祈らん。

彼等が智恵と齡とに日々成長し、神の光栄を顯すが為に主に祈らん。

輔

彼等が智恵と徳行の度生を送り、正教に堅立する事に依りて、両親には喜びと慰め、聖なる教会には固めとなるが為に主に祈らん。

彼等と我等が諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祈らん。

神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん

主爾に。

蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

主は神なり

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。（三次）（句）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐みは世世にあればなり。

輔 詠 司 詠 詠

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。
(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。
(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

第六調
（なんじ
そのもんと
二月三日うち
二月三日うち
ききた）

救世主や、爾が其門徒の中に來りて平安を彼等に與えしが如く、我等に來りて、我等を救い給え、ハリストス神や、爾の聖神は無学なる門徒を教導師となし、多種の方言の和合を以て迷を空うせり、全能の主なればなり。
光栄は父と子と聖神に帰す。（第八調）
崇め讃めらるるかなハリストス我等の神や、爾は漁者に聖神を遣わすを以て、智恵深き漁者となし、彼等にて世界を漁し得たり、人を愛する主や、光栄は爾に帰す。

(同 調)

今も何時も世世に、アミン。
(同調)
ハリストイアニン等の恥を得ざる轉達、造物主の前に変らざる仲保や、罪なる者

の祈りの声を退くる勿れ、仁慈なるに依りて速に我等を助け給え、爾を尊む者に常に代わりて、急ぎて祈り、切に願い

謹みて聽くべし。

輔 詠 司 輔

ボロキン

爾の神にも。

爾は嬰兒と哺乳者の口より、讃美を備えたり。

輔誦聖使徒パワエルがエフェヌ人に達する書の読み
慎みて聽くべし。睿智。

誦 「兄弟よ

相

(エアエス書)
ため
わ
六一九、三・八一三)

「兄弟よ、我断えず爾等の為に感謝し、我が祈祷の時に爾等を記憶す、願わくは我等の主イイスス・ハリストスの神、光榮の父は、爾等に智恵と默示との神を與えて、彼を識らしめ、及び爾等が心の目を明にせんことを、爾等が其召の望如何、其聖徒の為に備うる嗣業の光榮の豊厚なること如何、及び我等彼が權の力の行為に由りて信する者の中に、其能の極めて大なること如何を知らん為なり。信に由りて、ハリストスの爾等の心に居るを賜わんことを、爾等が愛に根ざきれ、基づけられて、衆聖徒と偕に、闊さと長さと深さと高さとの何なるを悟り、及びハリストスの測り難き愛を知るを得ん為、爾等が凡の神の充满に満てられん為なり。夫の我等の中に行行為する能に循いて、我等が凡そ求むる所或は思う所よりも極めて多く為すを得る者には、願わくは光榮は、教会に於て、ハリスト

司輔詠 司詠 司輔詠

音

(マルコ伝一〇・三一一六)
たずさ
きた

トス・イイススに因りて、
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。
萬代彼に帰して、
世世に至らん、アミン。」

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。

衆人に平安。

爾の神にも。

マルコ伝の聖福音經の読み。

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

謹みて聴くべし。

マルコ伝の聖福音經の読み。
主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。
謹みて聽くべし。

福 音 (マルコ伝 一〇・一三一一六)

「彼の時、幼児をイイススに携え来れるあり、彼等に触れん為なり、門徒携うる者を戒めたり。然れどもイイスス之を見て、憮りて彼等に謂えり、幼児の我に就くを容せ、之に禁ずる勿れ、蓋神の国は是くの如き者に属す。我誠に爾等に語ぐ、幼児の如くに神の国を承けざる者は、之に入るを得ず。乃彼等を抱き、手を其上に按せて、彼等に祝福せり。」

詠 主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。

重聯祷

我等皆靈を全うして曰わん、我等の思を全うして曰わん。

主全能者吾が列祖の神や、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次) (以下毎次同様)

又我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に祈らん。

又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

仁慈にして人を愛する主や、此の学童(或いは児童)等を顧み、彼等に智恵と

明哲と敬虔と神を畏るる畏との聖神を遣わし、彼等を其善良なる光りにて照らし、

彼等に力を与え、神の戒命及び悉くの善良且利益なる教導を受けて、速に悟り、
彼等の智恵と善行を以て神の聖なる名の光栄を顯わし、彼等に壯健と永生とを與
え、教会の誉れ及び光栄と為し給え、爾に祈る、仁慈を以て聆き納めて憐めよ。
神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、
我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛
する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。
アミン。

主に祈らん。
主憐めよ。

文

自我等の造成主、爾の尊き像を以て我等人々を飾り、爾の選びたる者を教えて、
其教えを述ぶる者を驚かしめ、幼童の智恵を開き、ソロモン及び凡そ爾の智恵
を求むる者を教えし主宰よ、此の爾の諸僕婢の心と知識を開き、彼等に爾の法の力
を授け、善く進歩して授けらるる所の利益なる教えを覚え、至善にして完備なる爾の

司 詠 輔 詠

司 詠 輔 詠

祝

主憐めよ。

旨を悟り、爾の至聖なる名の光栄と爾の聖なる教会の利益と建立とに努めしめ、彼等を凡の敵の悪謀より救い、彼等を生涯純正の教えと堅き信及び凡の敬虔と潔淨とに護り、常に彼等を明哲と爾が諸の誠を成就する事とに進歩せしめ給え、彼等が爾の至聖なる名を讃揚し、爾の國の世継ぎとならんが為なり、蓋爾は仁慈にして剛毅、堅固にして至善なる神なり、凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワيمより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生みし、

実の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の侍や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

福を降せ。

ハリストス我等の真の神は、其至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒日

司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠

詠

司 詠

本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

※（司祭、十字架で子供達を祝福しながら、曰く。）

主の降福は、恩寵と慈憐と仁愛とによりて爾等と共に在らん、今も何時も世世に。

アミン。

※（司祭、子供達が十字架に接吻する時、聖水を灌ぐ。謂う所なし。）